

芦屋市総合計画審議会 意見一覧（第7回）【創生総合戦略】

| 意見番号 | 開催 | 発言者 | 【人】 人口ビジョン 【戦】 総合戦略 | 意見 | | | ①意見に対する対応等 | 総合戦略 (原案)の 修正の 有無 | |
|------|-----|------|------------------------------|------|----------------|--------|---|---|---|
| | | | | 該当箇所 | 後期基本計画 該当箇所 | 意見内容 | | | |
| 1 | 第7回 | 徳田委員 | 人 | 全体 | - | - | 総合戦略策定に当たっては基礎的な人口ビジョンが大切だが、芦屋市という単独の自治体の人口減少を減らすなど、地域内経済の分析は行っているのか。規模の大きな自治体では地域内でも出している。 | 経済の分析については詳細には調査は行っておりません。 ただ、総合戦略を策定するにあたって市内の事業者を200件抽出し、アンケート形式で調査しました。今後具体的に事業を進めていく中で、そういった意見も反映したいと考えています。ただ、本市は住宅都市なので、住宅地として特化した魅力あるまちづくりを進めたいということを中心に策定しています。 | |
| 2 | 第7回 | 寺前委員 | 人 | P13 | - | 13-1-2 | 市内への転入者が多い状態が続いていたが、平成25年には阪神間の市外への転出が多くなっている。特に若年層のかたが、芦屋に住むことを敬遠する傾向があるように思う。住宅価格が高いこともあるが、マンションの修繕積立金等が高騰して、住みにくくなっていることも原因ではないか。 総合戦略のP8「分譲マンションの空き家状況調査を実施し、研究します」など対策が記載されているが、この問題の具体策を考えないと、芦屋から若い人が離れていく傾向が今後も続いていくのではないかと。 | 平成25年度は阪神間に限れば、市外転出が上回っていますが、転出入数全体で言えば、現在も転入数が多い状態です。 また、若年層が敬遠しているとは分析できていません。 しかしながら、若い夫婦や若い家族の方々が、市内で生活することができるよう、また選択してもらえるよう、調査結果等を踏まえ、今後の取組の中で検討したいと考えています。 | |
| 3 | 第7回 | 寺見委員 | 戦 | 全体 | - | - | 芦屋市のブランドを大事にしなが、一方で、ブランドがあるがゆえに、結果的に若者を排除することがないようにしなければならない。就学前教育や住宅の補助など、子育て支援策の中でも、生活そのものをボトムアップさせる施策がどの程度できているかが、重要である。芦屋市のブランドに甘んじるのではなく、今後、ブランドの子育て商品を出してほしい。 | 若い世代が本市で子どもを産み、育ててもらえるような環境作りが重要であると考えており、基本目標2において「若い世代」と表現しております。 具体的な内容については、今後の取組の中で検討したいと考えています。 | |
| 4 | 第7回 | 工藤委員 | 戦 | P13 | - | 13-1-2 | 多くの人が住む場所を選ぶ際に、神戸から阪神の間で芦屋も選択肢にあがる。その中で芦屋を選択するに至らないことがある。交通の便など魅力はあるが、先ほどの意見(意見番号3)のように若い人が住みにくいのではないかと。価格も含め、ニーズにあった物件が少ないのではないかと。芦屋を選択可能な人がこのエリアに多いと思うので、そこに対する戦略が必要なのではないかと。 | | |
| 5 | 第7回 | 林会長 | 戦 | 全体 | - | 3-2 | ワークライフバランスをどのようにしていくのかという、仕事と暮らしの両立の部分で、子育てができる環境をどのように整理するのか、1つの論点になる。 そういったことを進めるために、地元経済界との連携はしているのか。 | 総合戦略については、人口減少対策としての課題別計画として位置づけており、人口減少に資する施策を掲げています。 国が示す、総合戦略の原則の中には「直接性」が求められているところであり、本市の総合戦略においても、市が取り組み、直接的な効果を目指すものを基本に策定しており、ワークライフバランス、女性活躍推進、男女共同参画等については本戦略の中では表現していません。 | |
| 6 | 第7回 | 栗井委員 | 戦 | 全体 | - | 3-2 | 子育て支援の中に男性の育児・家事参加について記入されていない。必要ではないかと。 | 政策的には重要なものと認識していますが、市が直接的に効果を上げられる取組としては難しいと考えており、本戦略の中におきましては、まずは、働きたい女性が、子育てをしながら働くことができる環境づくりを進めるものとして、子育てを基本目標に掲げて取り組みたいと考えています。 | |
| 7 | 第7回 | 福井委員 | 戦 | 全体 | - | 3-2 | 「女性の活躍」について触れていない。どこかに入れていただければ。 | なお、ワークライフバランス、女性活躍推進、男女共同参画等につきましては、後期基本計画の中では、重点施策として、掲げており、その中で取り組んでまいります。 | |
| 8 | 第7回 | 林会長 | 戦 | 全体 | - | - | 後期基本計画であがっていて、総合戦略であがっていないものは優先順位が低いということか。 | | |
| 9 | 第7回 | 寺見委員 | 戦 | 全体 | - | 3-2 | 女性の就業率についてのデータがない。 男女共同参画で子育てや生活をしていくためには、ブランド力、安定的な経済状況などの芦屋の特性を踏まえた、子育ての姿、親の姿、夫婦の姿、結婚の姿などを念頭に入れる必要がある。女性の意識が他市と違うイメージの芦屋市の動向と男女共同参画施策とギャップがないかどうか、確認したほうがいいのかではないかと。 | ご意見をふまえ、女性の就業率のデータを人口ビジョンに追加しました。 なお、女性の就業等に関するご意見につきましては、前記意見番号5～7の中で、参考とさせていただきます。 | ○ |

| 意見番号 | 開催 | 発言者 | 【人】 人口 ビジョン | 【戦】 総合戦略 | 意見 | | | ①意見に対する対応等 | 総合戦略 (原案)の 修正の 有無 |
|------|-----|-----------|-------------------|-------------|------|----------------|--|---|----------------------------|
| | | | | | 該当箇所 | 後期基本計画 該当箇所 | 意見内容 | | |
| 10 | 第7回 | 徳田 委員 | 戦 | 全体 | - | - | 地方創生上乘せ交付金について、申請したか。 | 本年10月までに策定というスケジュールも含め、無理に事業を計画し、上乘せ交付金を得られるように進めるべきでない判断しました。来年度以降については、本戦略に基づく取組で可能な交付金については、申請し進めたいと考えています。 | |
| 11 | 第7回 | 寺前 委員 | 戦 | 全体 | - | 4-1 | 芦屋に住みたいと思っただけの内容をもっと表現してどうか。特に、芦屋市は学力テストの結果など教育面で実績が優れているので、アピールするべきではないか。 | 総合戦略の作り方として、本市がアピールできるところはできるだけ表現したいと考え芦屋市の特色を見直しました。学力の部分についても表現しました。 | ○ |
| 12 | 第7回 | 寺前 委員 | 戦 | 全体 | - | 8-2 | 防犯面についても安全であり、路上犯罪が減っていることについてアピールするべきではないか。 | P21の「防犯活動の推進」の項目で「芦屋市の特色」として、街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数は平成21年度と比較して約半分までに減少したとの記述をしております。 | |
| 13 | 第7回 | 徳田 委員 | 戦 | 全体 | - | - | 芦屋市で生まれ育った子どもが大きくなったときに、ふるさととして愛されるまちかどうかという考え方が重要。祭りなど一つ一つの地域の取組が積み重なって、子どもたちの心に残るのではないか。芦屋市が住民に愛されているかどうかは、ふるさと納税額を全国の類似団体と比べてみるのもよい。 | そういったことを身近でしていることを知らないという方も多ですし、魅力の発信を市外の方だけでなく市民の皆さまにも知ってもらえるよう広報のあり方についても考えたいと思います。 | |
| 14 | 第7回 | 今川 副会長 | 戦 | 全体 | - | - | 芦屋においては様々な知識や経験を持った高齢者のかたがいると思うので、外国語など学校教育支援を行う仕組み作りが必要ではないか。外国語を教えるだけでなく、海外での経験を話してもらうなど、小中学生に多くのことを伝えてもらいたい。 | 現在、小学校の英語学習では地域人材を活用しており、その方々から、語学の指導だけでなく、外国文化等の紹介も行っていただいています。今後も、様々な方々の協力を得て、小中学生が外国文化を知る機会を増やしていきたいと考えています。 | |
| 15 | 第7回 | 林 会長 | 戦 | 全体 | - | - | 総合戦略で完結するのではなく、これを足掛かりに、さらに進めていくためにはどうすればいいのか。芦屋市全体の参画と協働抜きでは変わらないと思う。提案・実施の仕組みづくりをどうするのか、計画を進めていく課題として整理する必要がある。 | 「6. 総合戦略を実行していくために」において、総合戦略について「柔軟に見直す」旨を標記しており、そのように取り組みたいと考えております。また、推進体制に「参画と協働の視点に基づき取組を進めます。」と追記しました。 | ○ |
| 16 | 第7回 | 徳田 委員 | 戦 | 全体 | - | - | 子育て施策などは、他市の情勢などを把握し、差別化を図り、課題に対してはフレキシブルに対応していただきたい。 | 「6. 総合戦略を実行していくために」において、総合戦略について「柔軟に見直す」旨を標記しており、そのように取り組みたいと考えております。 | |
| 17 | 第7回 | 野村 委員 | 戦 | 全体 | - | - | 芦屋に住んだことのある人は、もう1度、芦屋に戻ってきたいと思っている。それだけ住めばよいところだと感じている。素晴らしい取組をしているので、うまくアピールしてほしい。 | 総合戦略を通じて、芦屋の特色や良いところをうまく表現し、その部分を伸ばして魅力あるまちであることを、市内外問わず情報を発信しながら、取組を進めていきたいと考えています。 | |
| 18 | 第7回 | 寺見 委員 | 戦 | 全体 | - | - | まち・ひと・しごとの重なる部分の「暮らし」、特に若い人の「暮らし」を今後どのしていくのかというところに力をいれないと、次の世代に生み出すことができない。 | 意見番号3と同様。 | |
| 19 | 第7回 | 粟井 委員 | 戦 | 全体 | - | - | 総合戦略の計画期間が5年なので難しいと思いますが、長期的目標を2060年まで計算しているのであれば、さらに「そのときに芦屋市はどうありたいのか」というものがあればよいのではないかと。明るい未来がイメージできて、自分の子どもも幸せになっているという考えにつながっていればよいと思います。 | 「芦屋市創生総合戦略」においては、社会増、出生数維持等の中期的目標とともに長期的な人口目標として86,000人以上を設定しています。50年先のイメージを表現するのは難しく、記載には至りませんが、総合計画(10年)の策定においては、市民にも参加いただき、10年後の芦屋の姿を基本構想として策定しているところです。 | |
| 20 | 第7回 | 徳田 委員 | 戦 | P5 | 基本目標 | - | 基本目標1は他市との差別化が必要である。ブランド力を伴う具体的施策をどのようにしていくか、考え方が明確でないといけない。基本目標2は「特化したものはないが、他市並みのものはある」となっていれば、ブランド力によって芦屋に来てもらえる。この考え方が正しいかどうかは分からないが、住み分けを明確にするべき。 | これまでも芦屋ならではの、芦屋独自の取組を行ってきており、今回、総合戦略の中においても、そのような取組は引き続き取り組むものとして、「芦屋の特色」として表現したうえで、今後の取組を掲載しています。特に基本目標1では、景観、清潔なまちづくりをはじめとした住環境整備の取組は、これまでからも特徴的な取組として行ってきており、これらをさらに充実させることで、芦屋に住んでみたいという人を増やしたいと考えております。基本目標2においても、保育、教育環境はこれまでからも他市町村以上に充実しているものもありますので、さらに子ども・子育て支援事業計画とともに充実を図るものと考えております。 | |

| 意見番号 | 開催 | 発言者 | 【人】 人口ビジョン 【戦】 総合戦略 | 意見 | | | ①意見に対する対応等 | 総合戦略 (原案)の 修正の 有無 | |
|------|-----|-----------|------------------------------|------|----------------|--------|--|--|---|
| | | | | 該当箇所 | 後期基本計画 該当箇所 | 意見内容 | | | |
| 21 | 第7回 | 小田 委員 | 戦 | P8 | — | 13-2-3 | 人口ビジョンにも人口減少による影響を記載してあるが、商業の適正配置と小売業の再生が必要と考える。それに伴って、駅の南側も再開発をしているが、住宅地を中心とした再開発にしていきたい。 | ご意見については、具体的な施策実施の段階で参考とさせていただきます。 | |
| 22 | 第7回 | 工藤 委員 | 戦 | P9 | 芦屋市の特色 | 10-1 | 「芦屋市庭園都市」という考え方は、住環境全般や子育てなどで大きく含むものと思います。オープンガーデンなど記載されているだけなので、表現を変更したほうがいいのではないかと。 | 「芦屋庭園都市」の実現に向け取り組んでいることをオープンガーデン以外にも具体的に記載し、「緑の保全地区」の指定など項目を追加・修正しました。 | ○ |
| 23 | 第7回 | 小田 委員 | 戦 | P21 | — | — | JR芦屋北側に違法駐車が多い。夜になると信号無視も多い。市民のかたに法律を守ってもらうために、警察と協力して取り組んでほしい。 | ご意見については、具体的な施策実施の段階で参考とさせていただきます。兵庫県警など関係機関と連携を図っていきます。 | |
| 24 | 第7回 | 上月 委員 | 戦 | P27 | 芦屋市の特色 | — | 2つ目の○について、ICT機器は協働学習に有効だが、「～主体的、課題発見と解決に向けた協働的な学び」という文言に変更したほうがいい。 | 「ICT機器を活用した」の表現を削除し、文章を修正しました。 | ○ |
| 25 | 第7回 | 上月 委員 | 戦 | P28 | 今後の取組 | 4-1-2 | 教育振興基本計画策定の会議の中で、外国語の教育を深めてほしいということを市民のかたが思っているということがアンケート結果からわかったので、カリキュラムの「研究・開発に取り組めます」でとどまっていいいかと思えます。カリキュラムを作成し、指導まで取り組むということを強く打ち出してもいいのではないかと。 | 「カリキュラムを作成し、指導の充実を図る」という表現で、文章を修正しました。 | ○ |
| 26 | 第7回 | 上月 委員 | 戦 | P29 | 今後の取組 | 4-1-2 | 「家読」など読書については、今までも取り組んできた。今後5年間の総合戦略で進めるにあたっては、授業の中でどのように本を活用するのかということに記載したほうがいいのではないかと。また、授業で5冊読む、授業で図書館に行くなどを打ち出すために、「家読(うちどく)」を先にして、最後に「授業における学校図書館の活用を促進するとともに、公立図書館との連携をさらに進めます」という形にしたほうがよい。 | 「調べ学習等」で、学校図書館の利用を促進していくことを明記し、文章を修正しました。 | ○ |
| 27 | 第7回 | 上月 委員 | 戦 | P30 | 今後の取組 | 4-2-1 | キャリア教育が①の内容でいいのか。狭いと思います。想像できる具体的な取組は、中学校で積極的に進路ノートを使いますや、様々な職業のかたにきていただいで進路の話をするなどですが、もっと資質能力の部分を表現するべき。基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア教育を推進していくということなので、そこを外さないほうがいい。 | キャリア教育の捉えを勤労観、職業観だけでは狭いと言われることは、その通りだと思います。自分らしい生き方を考えることや、自己実現を図るための資質や能力を育てるといったことが、キャリア教育の大きな目標になりますので、目標設定について捉え方を広げたいと考え、表現を修正しました。 | ○ |
| 28 | 第7回 | 今川 副会長 | 戦 | P31 | — | 4-1 | 子どもが発言したいときに発言しやすい環境づくりや、公園を作るときに子どもが会議に参加するなど、子どもが発言できる権利を守り、年齢にふさわしい参画の場を設けることを盛り込んでほしい。 | 各学校では、子どもが主体的に意見を述べていく機会を設けるよう努めています。子どもの市民参画の教育については、特出しはしませんが、子どもの発達段階に応じて、できることから進めていきたいと考えております。 | |
| 29 | 第7回 | 野村 委員 | 戦 | P31 | 芦屋市の特色 | 4-1 | 「芦屋市の特色」の記載順としては、まず子どもの命についてを表現してほしい。 | 「子どもの命や人権の大切さを重視」が最初になるよう、記述順を入れ替えました。 | ○ |
| 30 | 第7回 | 野村 委員 | 戦 | P31 | 今後の取組 | 4-1 | 子どもたちに任せるだけではなく、周りの大人がしっかりと見ている姿勢を表現してから、子どもたち自身のことを記載してほしい。 | いじめは決して許されない行為であり、いじめ防止に取り組むことを明記して、文章を修正しました。 | ○ |
| 31 | 第7回 | 徳田 委員 | 戦 | P34 | — | — | KPIIについて、例えば緑被率やオープンガーデンなど市民の協力を得るものを載せることは疑問である。緑被率やオープンガーデン参加者数を高めるための行政の誘導策を数値化するなら筋が通る。 | アウトプットの指標を設定することは可能ですが、行政の取組状況ではなく、アウトカムを指標にし、その結果をもって成果が出ていることを把握しようとしています。国においても原則として実現すべき成果(アウトカム)に係る指標を設定することとされています。 | |